

I 学級の概要

- 1 学 校 名 墨田区立中和小学校
- 2 学 級 名 そよかぜ学級
- 3 対象児童 軽度の知的障害の児童
- 4 学 級 数 2学級
- 5 所 在 地 〒130-0024 東京都墨田区菊川1丁目18番10号
- 6 電 話 03-3634-7476 (学校代表)
03-3634-7550 (そよかぜ学級)
- 7 開 級 平成24年4月1日
- 8 児 童 数 9名 (令和7年4月30日時点)

II 知的障害学級について

知的障害学級は、知的に障害のある子供たちのための学級です。通常の学級の1学級35人定員に対して、1学級8名で編成されています。また、学級数に加えて1名の教員が加配されています。

知的障害学級では、障害のある子供たちが、将来、社会の一員としてその子なりに自立し、主体的な生活を送ることができるよう、一人一人の子供たちの発達に応じた目標を決めて学習をしています。例えば、そよかぜ学級では次のような学習を行っています。

- 挨拶、衣服の着脱、排泄、食事などの基本的生活習慣を身に付ける学習
- 個別やグループで、一人一人に合わせて行う確かな学力を身に付ける国語・算数の学習
- 豊かな心や表現する喜びを育て、精神の安定を図る音楽や図工、健康な体と忍耐力、健やかな心を育成するための体育の学習
- 栽培や調理、買い物、お楽しみ会の計画・実施、校外学習、理科や社会科等の教科、道徳や特別活動等の領域の内容を学習しながら、目的に向かって努力したり協力して行ったりすることの大切さや自分で考えて工夫する楽しさを知る生活単元学習

- 交流及び共同学習やＩＣＴ機器（タブレット等）を使った探究活動を中心とした総合的な学習の時間での学習
- 学年集団への所属感や、集団での行動力や社会性を高めるための、通常の学級での交流及び共同学習
- 自分の障害について正しく理解し、受け止めることにも繋がる、区内の知的障害学級との共同学習

このような学習のほかにも、係や当番活動などに取り組み、集団として主体的に学校生活を送ることで、将来地域の中で自立した生活をするための基礎となる力を養っています。

そして、直接的な支援を行わないことも一つの支援と考えて、敢えて見守り、子供が言い争ったり、試行錯誤したりする中で考える経験も大切にしています。

また、学級内の学習だけでなく、縦割り班活動、クラブ活動や委員会活動などの特別活動、運動会などの学校行事、給食時間など、様々な場面で通常の学級との交流を行っています。通常の学級との交流によって大きな集団のもつエネルギーを吸収し、たくさんの友達と遊ぶ喜びや社会性など、学級だけでは学ぶことのできないものを身に付けていきます。通常の学級の子供たちも、このようなかかわりを通して、障害のある子供たちに対する理解を深めています。

また、区内の知的障害学級での合同移動教室や合同交流会では、いつもは異なる場所で学習している友達と励まし合ったり、協力し合ったり、競い合ったりしながら活動する楽しさを感じることができるよう工夫しています。合同送別会では、区内の中学校の知的障害学級５校の先輩と一緒に活動する中で、中学生へのあこがれや生涯にわたって学習することへの期待感を高めています。

このように、知的障害学級では、学級を基盤として、自立につながる基礎・基本の力とそれを生かすための力を蓄え、校内の通常の学級や区内の特別支援学級との交流及び共同学習を通して、それらをより広い場所でも自分の力として発揮できるように学習活動を組み立てています。

Ⅲ そよかぜ学級の教育計画について

1 学校・学級の教育目標

●学校の教育目標

人間尊重の精神を基調とし、広く国際社会や地域社会において信頼と尊敬を得られる人間の育成を目指し、健康で自他の人格を重んじ、創造性に富み実践力のある児童を育成するため、次の目標を設定する。

- ア よく考えて工夫する子供
- イ 自主性に富み責任感の強い子供
- ウ 心ゆたかで思いやりのある子供
- エ 健康で明るい子供

●学級の教育目標

心身の障害の状況に応じて、生涯にわたって自ら生きる力を育むための基礎・基本となる力や持続可能な社会に参画する資質をもった人間性豊かな児童の育成を目指し、次の目標を設定する。

- ア 楽しく学ぶ子
- イ 最後まであきらめない子
- ウ 仲良く助け合う子
- エ 進んで運動をする子

2 学級経営のねらい

(1) 日常生活の自立と健康のために

衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔などの基本的な生活習慣については、習慣化し、場所が変わってもできることが大切です。また、あいさつ、言葉遣い、決まりを守ることなどの集団生活に必要なマナーの確立も大切です。

子供自身が、日々の生活に自分の力を出し切って取り組むような目標や手だてを設定し、それに毎日取り組むことで、子供自身の力で生活できる部分が日に日に大きくなり、子供の生活はより自立的になり、より発展的になります。

生活の流れに沿って、実際の状況の中で繰り返し指導しながら、望ましい生活習慣の形成を図ります。ご家庭と連携して、子供がよりよく日常生活に取り組めるように生活を整え、必

要な支援を行うことで、基本的な生活習慣を身に付けることができます。

子供が1日の生活に見通しをもって、その時々の日常生活の様々な活動を自力で処理できるようになることは、単に周辺生活の処理にかかわる技能を高めることにとどまらず、日常生活をより自立的・発展的に行うための生活意欲や生活態度を育てることにもつながります。それはすなわち、子供が自分の力を最大限発揮できることにつながると考えています。

また、健やかな体は、生活の基礎であり、体力の向上、体重のコントロールも学年が上がるに伴って大切な課題となってきます。放課後の生活で、汗を流して活動することがどうしても少なくなってしまう児童が多いため、登下校の習慣、休み時間の過ごし方だけにとどまらず、食生活の管理など総合的な生活習慣のコーディネートが必要です。

週3時間の体育の授業、及び週1時間体育館を活用した音楽でのリトミックなど、様々な身体の動きを習得することを目指して、また、運動量を十分に確保することを意識していきます。繰り返し学習しながら達成する喜びや、生涯に渡って身体を動かす楽しみを味わうことを目指していきます。

(2) 自分でやろうとする気持ちを育てるために

そよかぜ学級の子供たちの多くは、入学前の生活の中で、どうしても「やってもらう」「やらされる」ことの多い生活を送ってきています。これは、「なるべく早くできるようにさせたい」という願いから考えると当然のことです。しかし6・7歳～11・12歳を迎える小学校の6年間を考えると、日常生活の自立と同じように、自分でやりたいという意欲をもつことが大切な時期といえます。

そのために、自己選択・自己決定の場면을意図的に設定していきます。発達段階や学習の目標、教材の難易度に関連しない場面であれば、学習課題を1つだけでなく複数用意し、選択できるようにしていきます。このような取り組みから「自分で考える」「自分でやる」気持ちを高めていきます。

登校後に、自分の荷物を整理し、連絡帳や宿題ファイル等を提出して、着替えを済ませると、友達や教師との会話を楽しんだり外で遊んだりする時間になります。この毎朝の一連の作業については、教師から声を掛けられなくても進められるように促していきます。

また、学級の中に教師の意図的でない新たな課題が発生した場合も、最初は子供の様子を見守ったり、小さなヒントを与えたりすることで、自分で課題を解決していこうとする態度を育てます。

これらのことは生涯学習の視点からも大切だと考えています。自らの意欲が、次の自分の課題を発見し、そのことに自律的に取り組んでいく態度につながる基盤を作りたいと考えています。

(3) 一人一人の成長を確実にするために

子供たち一人一人が安全で楽しい学校生活が送れるように配慮し、それぞれの発達段階に合わせて指導にあたります。一人一人の課題に応じて、保護者や専門機関と連携して個別の教育支援計画及び個別指導計画を作成し、学習活動の基盤として活用していきます。

そして、子供たちが放課後に利用している、学童クラブ、療育施設、医療施設、学習機関とも、直接的に、或いは保護者を通して間接的に、それぞれの役割を確認し連携しながら、児童にとって必要な支援を考えていきます。

また、授業場面における工夫として、幾つか心がけていることがあります。複数の指導者で指導することがそよかぜ学級の特長ですが、「子供たちが主指導者に注視できる環境を保持する。」「主指導者の指示をそれ以外の教職員が安易に繰り返さない。」ということを常に意識しています。「全ての不必要な支援は、発達の障害物になる」という考えです。

授業の開始時刻や終了時刻を教師自身が守ることも大切で、このことが、次の活動に必要な時間を保証することにつながり、子供たちが安心して授業に参加できるようになります。子供たち自身にも、時間を守ることや、やらなくてはいけないことは素早く短時間で行うことを求めています。この場合も、「周りから遅れないようにするための支援」よりも「周りから遅れていることに気付ける支援」を心がけ、子供自身が修正していこうとする気持ちを育てます。

さらに、授業規律についても、「授業の始めと終わりのあいさつを全員が姿勢を正しくして行う。」「指名されたら、返事をしてから答える。」「挙手して指名されてから答える場と各々が口々に答えてよい場の区別をする。」というルールを徹底していきます。

そして、子供に提示した目標が的確に伝わり、見通しをもって適切に活動しているかということを、常に子供の姿で評価し、授業を進めていくことを大切にしています。これは、45分の中で1回だけ行うものではありません。授業を構成している細かい活動一つ一つについて、「子供に伝えたら、そのことができているか評価する」という繰り返して授業が成立しているという考え方に基づいて、可能な限り細かいターンでの指導と評価の一体化を目指していきます。また、「活動についての説明の後には質問の時間を設ける。」ことや「授業の最後に、代表の児童1名が学習のまとめの発表をする。」ことを通して、子供たちが見通しをもって活動に取り組むことも大切にしています。

これらのこと一つ一つが、一人一人の成長を確実にするための大切な営みだと考え、一人一人の児童にとっての深い学びをイメージしながら、教育活動に取り組んでいきます。

(4)「もっとやってみたい」という意欲のために

学校生活の多くの時間が授業時間です。登校してから学校で過ごす時間(6時間授業日)は、6時間45分(8時15分～15時00分)、授業時間は4時間40分(45分×6時間+10分=280分)になります。およそ3分の2が授業時間です。そよかぜ学級では、この時間以外にも、日常生活上の学習課題や休み時間の過ごし方についても目標を設定するので、子供もがそれを意識するものと意識しないものがありますが、ほとんど全ての時間が学習の時間です。

「自分の課題を意識する」→「課題に向かって努力する」→「わかった」「できた」→「友達にスゴイって言われた」「保護者や教師に誉められた」→「もっと上手にできる友達がいるぞ」「ちょっと難しそうだけどやってみようかな」というルーチンの中で、「わかる楽しさ」「できる喜び」を味わうことはとても重要であり、一人一人がその思いをもつことができるような取り組みを、授業時間はもちろん、学校の教育活動全体の中で行うことで、「もっとやってみたい」という意欲につながると考えています。叱る時は簡潔に一度だけ、一度できたことはその時誉め、その時間の終わりにも誉め、次の時間も誉めることを心がけていきます。

また、キャリア教育の視点で各活動を整理しています。曜日によって持ち帰る学習用具を忘れないための工夫をしたり、毎朝の係活動で「報告・連絡・相談」の要素を取り入れたりしています。

さらに、学級活動や生活単元学習の中で、お楽しみ会等について話し合う時間を確保するようにしています。自分たちが考えたプログラムのお楽しみ会が実現したり、プログラムを友達と協力して運営する楽しさを味わったりすることで、更に積極的な気持ちで学校生活が送れるようになると考えています。他の場面でも意図的にこのような場面を設けるようにしています。

一人一人の個性を認め、集団の中で一人一人が活躍できる場面を設定することも心がけています。努力している分だけ価値があるということが学級の風土となるように努力していきます。

これらの取り組みの中で、主体的に学ぶ力を育てていきます。

(5) 人とのかかわりを楽しむために

そよかぜ学級は、児童数9名ですが、個と個が集まった集団であること、学校の中の1つの学級である特徴を生かした学級経営を基本にしています。学級の中でも集団で遊ぶ楽しさやルールを守ることの大切さを学校生活の様々な場面で体験するようにしています。

例えば、学級の中での小さな「いさかい」も大きな成長のためのかかわりの一つと考えています。各々の価値観を擦り合わせる大切な中間ポイントだからです。各々の価値観の中で、互いに落としどころを探るまで、教師は一定の範囲の中で見守ったり、必要最小限の仲介をしたりするに留めます。これらの取り組みが、次の「人とのかかわり」を楽しめることにつながると考えています。

学校の一員として、全校朝会や学校行事に参加する場面もあります。活動の特性に応じて、そよかぜ学級として参加する場合(全校朝会・児童集会・学芸会・消防写生会等)もあれば、当該学年の一員として参加する場合(運動会等)もあります。

また、交流の学級では、学年での学習(生活科見学、社会科見学)や、お楽しみ会等でも一緒に学習したり活動したりしていきます。

このような場を生かし、集団を意識したり、様々な人と様々なかかわりをもったりしながら、たとえ普段は生活を異なる人とであっても、必要なかかわりを保ちながら心豊かに成長できるよう支援していきます。これらの取り組みの中で、対話的に学ぶ力を育てていきます。

3 指導形態

《教科・領域》

◇国語・算数・書写	―― グループ別学習 *指導内容により全体学習
◇音楽・体育・図工	―― 全体学習
◇生活単元学習等	―― 全体学習・グループ別学習

《クラブ・委員会活動》

◇クラブ活動（４年生以上）

－室内ゲームクラブ・家庭科クラブ（今年度そよかぜ学級所属クラブ）

◇委員会活動（５年生以上）

－図書委員会・保健環境委員会（今年度そよかぜ学級所属委員会）

4 交流及び共同学習

＊子供の実態に合わせて進めていきます。

◇生活科見学（１・２年生） ◇社会科見学（３～６年生で当該学年）

◇運動会（当該学年） ◇縦割り班活動 ◇体験的学習 ◇教科学習

◇ゲストティーチャーを招いた学習（当該学年またはそよかぜ全員で）

5 本年度のおもな行事予定（○学校行事 □区合同行事 ◇学級行事）

４月－○前期始業式 ○入学式 ○１年生を迎える会 ○消防写生会

５月－○運動会

６月－○水泳指導始め

７月－○夏季水泳指導 ○オープンスクール

９月－□合同交流会（そ３・４年）

１０月－○前期終業式 ○後期始業式

１１月－○漢字検定① □鹿沼宿泊学習（そ５・６年） ○学芸会

１２月－○研究発表会

１月－○席書会（校内書き初め展） □連合書写展

２月－□合同送別会 ○漢字検定② ◇そよかぜ卒業遠足

３月－○６年生を送る会 ◇卒業進級を祝う会

○卒業式（５・６年） ○修了式（１～５年）